

# 気 象

## 【概 況】

### 【平成15年の気象の特徴】

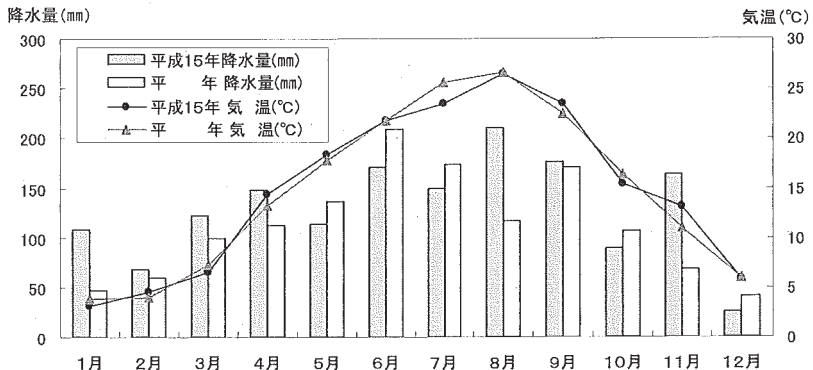
- ・冬の気温は平年並(12月：平年並、1月：低温、2月：高温)で多雨・寡照。
- ・春の気温は高温(3月は低温)で多雨・寡照。
- ・梅雨入り(6月10日頃)・梅雨明け(8月1日頃)は平年より遅く、梅雨期間は少雨。
- ・6月は少雨で寡照。7月は低温・少雨・寡照。8月は多雨で寡照。
- ・9月は残暑の厳しい日が続き、高温で多照。
- ・10月は低温(特に、10月上旬は極端な低温)。
- ・11月は記録的な高温・多雨・寡照。
- ・初冬は少雨・寡照。

### 【月別の気象概況】

- 1月： 上旬は、低気圧の通過後に冬型の気圧配置が強まり、旬の中頃を中心に気温がかなり低くなった。中旬は、冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変化し、気温は寒暖を繰り返して平年並みに経過した。下旬は、低気圧や前線の影響で降水量が多くなり、南海上から暖かく湿った空気が流れ込んで一時気温は高くなったが、旬の半ば過ぎからは冬型の気圧配置が強まり気温は低くなった。
- 2月： 上旬の半ば過ぎまでと中旬の終わり頃は、冬型の気圧配置となって寒気が流れ込み、気温は低くなった。その他の日は、天気は周期的に変化し、暖かい移動性高気圧に覆われたり低気圧や前線の影響で南海上から暖かく湿った空気が流入して、気温は高く経過した。
- 3月： 上旬・中旬は、低気圧や前線の影響を受け曇りや雨の日が多かった。また、低気圧の通過後に一時強い冬型の気圧配置となり、寒気の影響を受け気温は平年を下回る日が多かった。下旬の前半は、天気は短い周期で変化した。後半は、高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温は平年を上回った。なお、30日には、桜(ソメイヨシノ)が開花した。これは、平年(4月1日)より2日早く、昨年(3月20日)より10日遅い開花となった。
- 4月： 上旬は、低気圧と高気圧が次々に通過して、天気は短い周期で変化した。中旬の前半は、低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。後半のはじめは移動性高気圧に覆われて、夏日(日最高気温25℃以上の日)になる日があったが、旬末は低気圧や前線の影響で雨となった。下旬の前半は、天気は周期的に変化した。後半は、移動性高気圧に覆われて、夏日になる日があった後、旬末は低気圧や前線の影響で雨となった。なお、4日には、桜(ソメイヨシノ)が満開した。これは、平年(4月6日)より2日早く、昨年(3月26日)より9日遅い満開となった。
- 5月： 上旬の前半は、移動性高気圧に覆われ、真夏日(日最高気温30℃以上の日)となる日があった。後半は、気圧の谷や低気圧の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。中旬は、低気圧や気圧の谷の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。下旬は、高気圧に覆われ概ね晴れたが、中頃は大気の状態が不安定となり、旬末は台風第4号から変わった低気圧や前線の影響で南部中心に大雨となった。
- 6月： 上旬は、高気圧に覆われることが多く概ね晴れたが、7日は大気の状態が不安定となり、北部の一部で雷を伴い短時間強雨となった。また、旬末には南海上の梅雨前線がゆっくり北上し、10日頃、近畿地方は梅雨入り(平年6月6日頃、昨年6月11日頃)した。中旬は、梅雨前線や台風第6号の影響で、曇りや雨の日が続き、日照時間は平年を大きく下回った。下旬は、旬の前半から中頃にかけて梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。特に、24日夜から25日朝にかけては、県内の所々で一時激しい雨となった。旬末は、梅雨前線の活動が弱まって南海上に停滞したことから、雲が多いながらも晴れ間が広がり、梅雨の中休みとなった。
- 7月： 上旬から下旬の前半まで、梅雨前線が西日本付近や南岸に停滞することが多く、曇りや雨の日が多くなり、低温と日照不足の状態が続いた。下旬の中頃から、梅雨前線が南海上で活動を弱め、高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。

- 8月： 上旬の前半は、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、上旬の後半には、台風第10号が近畿地方を通過した影響で、県内で大雨や強風による災害をもたらした。中旬は、前線が西日本付近や南岸に停滞することが多く、曇りや雨の日が多くなり、低温・多雨・寡照が顕著になった。下旬の前半は、太平洋高気圧に覆われて残暑の厳しい日が続いたが、後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。なお、近畿地方の梅雨明けは平年に比べてかなり遅くなり、8月1日頃に梅雨明け(平年7月19日頃、昨年7月20日頃)した。
- 9月： 上旬は、太平洋高気圧に覆われて残暑の厳しい日が多かったが、南から暖かく湿った空気の流れ込みと強い日射の影響を受けて、大気の状態が不安定となり、北部の一部で雷を伴い短時間強雨となった日があった。中旬の初めと中旬末から下旬の初めにかけて、前線や台風第14号の影響を受けて、曇りや雨の日となった。中旬の中頃と下旬の後半にかけては、移動性高気圧に覆われて、概ね晴れの日が多かったが、下旬の中頃は、気圧の谷や前線の影響を受け、県下でまとまった雨となった。
- 10月： 上旬は、高気圧に覆われることが多く、概ね晴れの日が多かったが、旬の中頃は、気圧の谷の影響で曇りの日が多くなった。中旬の前半は、低気圧や前線の影響で、曇りや雨の日が多かったが、旬の後半は、高気圧に覆われて、概ね晴れの日が多くなった。下旬の前半は、気圧の谷や寒気の影響で、曇りや雨の日となった。また、28日夜から29日明け方にかけて、寒冷前線が通過した影響で一時的雨となったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。
- 11月： 上旬の天気は短い周期で変化したが、前線の影響で降水量が多くなった。また、平年に比べ気温の高い日が続いた。中旬の天気は周期的に変化した。11日と15日、及び19日から20日にかけて気圧の谷が通過した影響で、曇りや雨の日となった。なお、18日には初霜(平年より9日遅い、昨年より11日遅い)、初氷(平年より5日早い、昨年より2日早い)を観測した。下旬の初めから中頃にかけて、天気は短い周期で変化し、旬末は前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多くなった。24日後半から25日にかけて気圧の谷が通過した影響で、県内でまとまった雨となった。気温は22日から24日に一時的に平年を下回ったが、その他の日は平年より高く経過した。
- 12月： 上旬の天気は、周期的に変化したが、冬型の気圧配置になる日が多かった。1日には台風第21号が南海上を通過したことや6日に寒冷前線が通過した影響で一時的雨となった。中旬の天気は、気圧の谷の通過後に冬型の気圧配置となることが多く、寒い日が多かった。特に19日から20日にかけて強い冬型の気圧配置となり、20日には、初雪(平年より1日遅い、昨年より10日遅い)を観測した。また、19日に近畿地方で「木枯らし1号」(昨年より53日遅い)を観測した。下旬の前半の天気は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多くなったが、後半の天気は短い周期で変化した。

奈良市の月別平均気温と月間降水量(平成15年値と平均値)



(注) 平年値とは1971年から2000年の平均  
資料：奈良地方気象台

## 奈良市の月別気象

年 月 別	気 温 (°C)			湿度(%)	降 水 量 (mm)		風 速 (m/s)	
	日 平 均	日最高平均	日最低平均	平均	合 計	最 大 1時間量	平均	最大瞬間
平成11年	15.3	20.8	10.6	71	1,390.5	75.0	1.4	22.8
12	15.1	20.7	10.4	73	1,319.5	79.0	1.4	20.6
13	15.1	20.7	10.4	71	1,189.0	35.5	1.4	23.1
14	15.4	21.1	10.7	71	990.0	37.5	1.4	19.3
15	14.8	20.0	10.3	75	1,546.0	27.5	1.4	24.2
15年1月	3.1	8.0	-0.8	71	107.5	10.0	1.7	18.3
2	4.5	9.7	0.0	73	68.0	7.0	1.4	11.8
3	6.5	12.2	1.4	68	122.5	12.0	1.7	16.7
4	14.3	20.2	8.8	72	148.5	12.5	1.5	12.8
5	18.4	24.7	12.9	71	113.5	23.5	1.5	24.2
6	21.8	26.6	17.7	78	170.0	18.0	1.3	14.8
7	23.4	27.8	19.8	81	150.0	10.5	1.1	10.9
8	26.5	31.5	22.7	78	210.0	19.0	1.2	20.5
9	23.4	28.8	19.2	76	176.5	27.5	1.2	20.3
10	15.4	21.2	10.5	75	90.0	9.5	1.2	13.3
11	13.1	17.5	9.1	82	164.0	9.0	1.1	13.0
12	6.6	11.5	2.5	72	25.5	3.5	1.4	15.5

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

## 県内各地の気象

(平成15年)

気象項目別	奈 良	針	大 宇 陀	五 條	上 北 山	風 屋
年 平 均 気 温 °C	14.8	12.2	12.9	14.7	13.6	13.9
日最高気温(年平均) °C	19.7	16.9	18.4	20.2	19.1	19.1
日最低気温(年平均) °C	10.4	8.0	8.2	10.0	9.6	9.9
年 間 降 水 量 mm	1,545	1,805	1,795	1,540	2,811	2,440

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

## 奈良県で感じた主な地震

(平成15年)

月 日	発現時分	震 度				震 央 位 置		深さ (km)	マグニ チュード	震 央 地 名
		奈良	平群	桜井	大淀	東 経	北 緯			
1月19日	4時50分	1		1		137度14分36秒	33度52分18秒	44.6	5.6	東海道沖
1月23日	21時42分	1		1		137度16分24秒	33度54分00秒	34.5	4.5	東海道沖
2月6日	2時37分	2				135度34分00秒	35度04分48秒	15.0	4.2	京都府南部
4月1日	12時11分	1			1	135度28分18秒	34度15分54秒	67.9	3.9	和歌山県北部
5月18日	3時23分	1				137度35分54秒	35度51分48秒	7.1	4.7	長野県南部
7月6日	8時30分	1			1	135度56分42秒	32度41分24秒	38.2	4.6	紀伊半島沖
7月27日	1時55分	1	1	1		135度43分06秒	34度34分48秒	14.6	3.4	奈良県地方
10月8日	23時35分	1		1		135度08分30秒	34度40分54秒	13.7	4.2	兵庫県南東部
10月28日	13時31分	1				136度47分54秒	34度24分06秒	33.3	4.1	三重県中部
11月12日	17時26分	1				137度03分24秒	33度10分12秒	397.8	6.5	東海道沖
12月18日	3時02分	1				136度24分36秒	34度13分06秒	36.6	3.7	三重県南部
12月23日	14時34分	1				136度18分12秒	35度36分54秒	9.3	4.4	滋賀県北部

有感地震観測回数

奈良市平田開町： 12回      平群町鳴川： 1回  
桜井市池之内： 4回      大淀町松垣本： 4回

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」  
(注)各要素は精密調査の結果により後日修正されることがある。